

SPANCRETE CORPORATION

Investors' Guide IR 2005

会社情報



高層マンションの床に用いられた新製品 幅広板の敷き込み

株式会社 スパンクリート コーポレーション

本 社

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-9-25

Telephone: 03-5689-6311 Facsimile: 03-5689-6321

www.spancretecorp.com

JASDAQ 〈証券コード 5277〉

● みなさまとのコミュニケーションを大切に ●

インベスターズガイドについて

インベスターズガイドは、株主ならびに投資家のみなさまに、当社の財務内容を正確にお伝えするとともに、みなさまとのコミュニケーションの手段として発行を続けてまいりました。毎年約100通のアンケートの回答をいただき、ご意見の一部を編集に反映させていただいております。今後ともみなさまからのご意見をいただきたいと存じますので、同封のアンケート用ハガキにてお寄せいただければ幸いです。

■ 高層マンション引合い好調

最近の首都圏マンションは、これまでと比べ非常に大型化の傾向が強く、1棟で2,000所帯を超えるようなものまで出現しています。まさしく『街』です。

当社では、現在、我が国最大のマンション「ワールド・シティタワーズ」に、床板として、昨年子会社化したプレテック(株)の製品パリアックス板が全面的に採用されました。数量は約130,000m²です。

昨年未から出荷が始まっており、納入終了は来春になる予定です。実に足かけ3年に及ぶ大工事です。マンションの受注は一時的な変動はあるものの趨勢としては確実に増加しており、今期の出荷に貢献できる見込みです。

■ 「外断熱パネル」北総研と共同研究

昨年、外断熱パネルの販売を開始いたしましたが、一部のお客さまから今ひとつデータが足りないのご指摘をいただき、データを追加すべく検討しておりましたところ、この度、北総研（北海道立北方建築総合研究所）から「非常に興味深い材料なので共同研究を行いたい」との申し入れをいただきました。北総研は寒冷地構造物研究のオーソリティであり、「早急に」とのお客さまのご要望に添うべく共同研究を実施することになりました。

京都議定書が発行され、省エネに一段と熱を帯びてきた今日、データの完成が待たれます。データの間接報告は本年7月の予定です。

■ 2005年3月期について

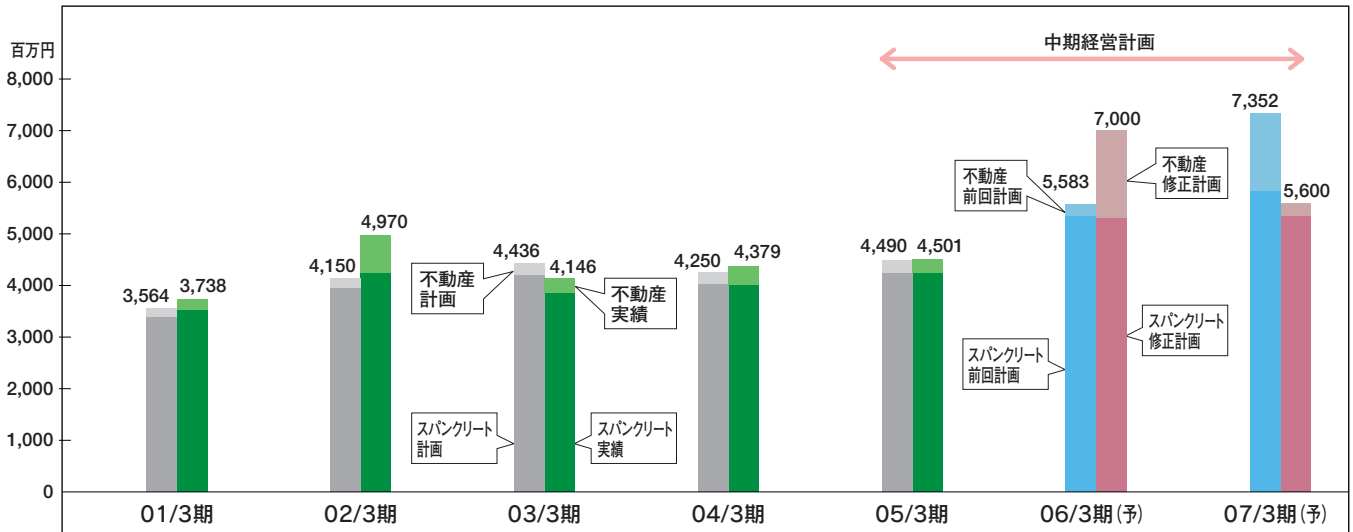
2005年3月期は、スパンクリート部門の生産数量・出荷数量が共に落ち込み苦戦を余儀なくされましたが、不動産関連部門の健闘に支えられた一年でありました。連結売上高につきましては、スパンクリート事業で出荷水準は低下いたしましたものの、結果としては概ね当初計画通りの45億円を計上いたしました。利益面につきましては、工場の稼働率が低迷したことに加え、PC鋼線等の原材料費のアップを吸収しきれず、スパンクリート部門は苦戦いたしました。不動産事業の安定収益とリート関連等の運用収益により、連結経常利益は、1億5千3百万円を上げることができました。また、福利厚生施設関連の子会社株式評価損3千1百万円を特別損失に計上したことにより、連結当期純利益は6千9百万円となりました。

■ 2006年3月期の見通し

今期の見通しにつきましては、スパンクリート事業は、高層マンションの堅調な受注により、生産・出荷共に数量の確保はまずまずの状況にあります。収益的には原材料費や運送費のアップをどれだけ吸収し販売価格に転嫁できるかがポイントであり、ここ一年は厳しい状況が続くものと予想しております。一方、不動産事業につきましては、安定的な賃貸ビル収入に加え、今期後半には現在建設中の八丁堀分譲マンションが竣工引渡しとなることから、収益への貢献を期待しております。以上を勘案し、2006年3月期は、連結売上高70億円、連結経常利益3億3千万円（売上高経常利益率4.7%）、連結当期純利益2億3千万円との見通しを立てております。

前期より3ヵ年の中期経営計画をスタートいたしましたが、昨年来の鋼材、原油価格等の上昇により環境が大きく変わり、加えて分譲マンションの販売も一年前倒しになる等の後発の状況変化がありましたので、計画数値の見直しを実施いたしました。

売上高



貸借対照表要旨 (資産の部)

(単位: 百万円)

	01/3期 連結	02/3期 単独	03/3期 単独	04/3期 連結	05/3期 連結	(%)
資産の部						
流動資産	4,012	3,788	4,691	4,741	4,193	39.6
現金及び預金	1,294	695	1,129	1,287	952	
受取手形及び売掛金	949	1,023	1,013	1,341	1,457	
完成工事未収入金	99	16	18	10	62	
有価証券	682	972	1,333	786	735	
たな卸資産	884	976	1,121	1,211	916	
繰延税金資産	14	22	22	37	18	
その他	88	82	52	66	49	
固定資産	7,278	7,322	6,401	6,432	6,394	60.4
有形固定資産	3,743	4,845	4,748	4,871	4,928	46.6
建物及び構築物	1,124	1,370	1,294	1,307	1,272	
機械装置及び運搬具	289	272	328	409	464	
工具、器具及び備品	26	19	15	26	24	
土地	2,303	3,109	3,109	3,114	3,162	
建設仮勘定	—	74	—	13	4	
無形固定資産	5	14	12	46	67	0.6
投資その他の資産	3,529	2,462	1,640	1,513	1,397	13.2
投資有価証券	2,796	1,651	922	833	962	
長期貸付金	39	49	45	36	36	
繰延税金資産	112	187	168	116	69	
その他	611	672	529	621	339	
貸倒引当金	△30	△98	△25	△94	△9	
資産合計	11,291	11,111	11,092	11,174	10,588	100.0

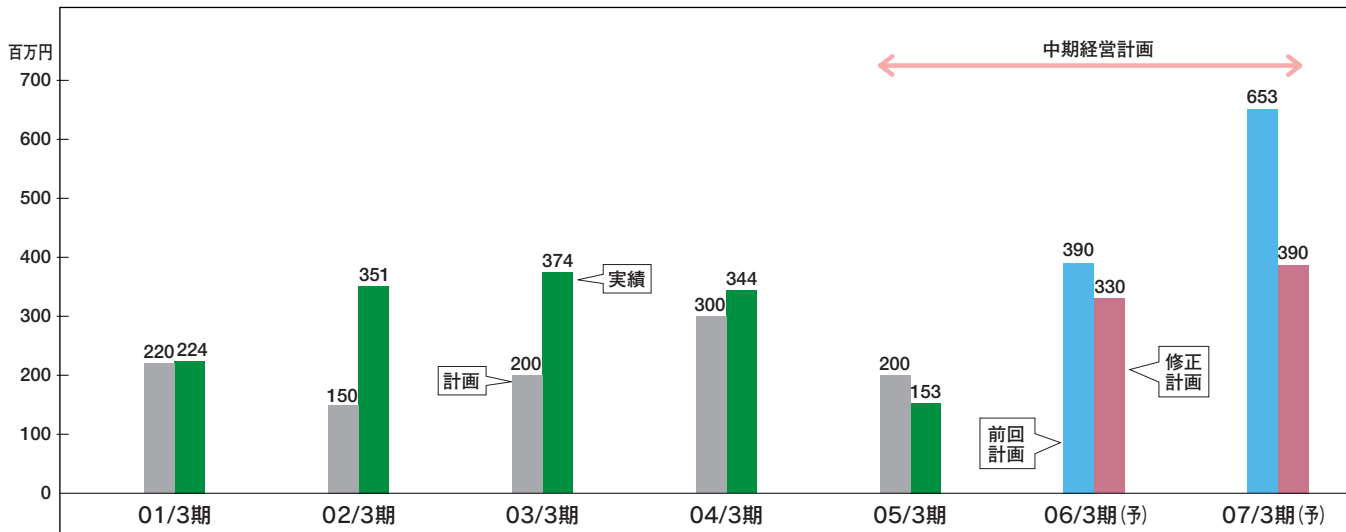
- 受取手形はすべて期日に取りたてており、手形の割引は行っておりません
- 売上計上基準の変更により未成工事支出金が減少しております
- 02/3期に土地の再評価を行っております
- 四日市土地 (日本プレキャスト(株)) の担保処分が終わりましたので減少しました
- マイカル債の処理が確定しましたので減少しました

明星プレテック(株)の連結貸借対照表に与える影響額は資産合計で+69百万円であります。(04/3期)

財務諸表コメント

- 【01/3期】 マンション関連の需要増により売上高は増加しましたが、価格競争が激化し営業利益は減益となりました。しかし、有価証券運用益等が寄与し、経常利益は増益となり、また税効果会計における法人税等調整額等により当期純利益も増加しました。
- 【02/3期】 マンション及び新幹線防音壁の売上数量の増加に不動産賃貸ビル収入増と不動産卸売りの収入が加わり、売上高・経常利益とも前期比堅調な伸びを示しましたが、マイカル社債及び青木建設の売掛債権関連の特別損失により、当期純利益は小幅に留まりました。
- 【03/3期】 採算重視の営業政策により売上数量が若干減少し減収となりましたが、営業利益・経常利益はコスト削減効果が加わり増益となりました。

経常利益



貸借対照表要旨(負債・資本の部)

(単位：百万円)

	01/3期 連結	02/3期 単独	03/3期 単独	04/3期 連結	05/3期 連結	(%)
負債の部						
流動負債	2,992	2,503	2,413	2,507	1,953	18.4
買掛金	85	64	91	120	128	
工事未払金	80	67	73	77	97	
短期借入金	1,800	1,300	1,300	1,300	1,300	
一年内返済予定の長期借入金	87	129	123	162	57	
未払法人税等	15	16	66	141	13	
その他	925	926	757	706	355	
固定負債	533	998	871	680	620	5.9
長期借入金	285	400	276	114	56	
役員退職引当金	151	161	171	167	171	
その他	96	436	423	398	392	
負債合計	3,526	3,501	3,285	3,187	2,573	24.3
少数株主持分	1	—	—	—	—	—
資本の部						
資本金	3,234	3,234	3,243	3,267	3,287	31.0
資本剰余金	3,821	3,732	3,604	3,628	3,648	34.5
利益剰余金	812	663	877	1,035	1,073	10.2
土地再評価差額金	—	161	172	172	172	1.6
その他有価証券評価差額金	△100	△177	△80	86	105	1.0
自己株式	△5	△4	△9	△205	△273	△2.6
資本合計	7,763	7,609	7,807	7,986	8,014	75.7
負債、少数株主持分及び資本合計	11,291	11,111	11,092	11,174	10,588	100.0

支払手形の発行はございません
取引先から安心してお取引いただいております

約定返済により減少しております

ストックオプションの行使があり、増加しました

02/3期に土地の再評価を行っております

株価の上昇等により増加しました

自己株式を約59万株保有しております

財務諸表コメント

〔04/3期〕 高層マンション向け床板等の売上が伸び、数量増効果とコスト削減により増収増益となっております。

〔05/3期〕 マンション及び新幹線受注の一時的な落ち込み、PC鋼線等の原材料費の増加で営業利益は低迷しましたが、不動産リートの運用収入等が寄与し、経常利益・当期純利益は黒字を確保しました。

キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

	02/3期 単独	03/3期 単独	04/3期 連結	05/3期 連結
営業活動によるキャッシュフロー				
税金等調整前当期純利益	△32	199	344	121
減価償却費	156	110	163	202
運転資金の減少 (現金・預金・有価証券及び短期借入金を除く)	610	24	△199	△228
法人税等の支払額	△33	△21	△100	△127
営業活動から得た現金及び預金	700	312	208	△32
投資活動によるキャッシュフロー				
有価証券の取得による支出	△2,541	△1,089	△419	△379
有価証券の売却による収入	2,630	1,821	1,259	589
有形固定資産の取得による支出	△919	△68	△178	△221
その他の投資等の増減額	174	100	△460	△17
投資活動から得た現金及び預金	△655	764	202	△28
財務活動によるキャッシュフロー				
短期借入金の増加額	△500	—	—	—
長期借入金の返済による支出	△142	△129	△123	△162
長短借入金による収入	300	—	—	—
自己株式の取得による支出	△225	—	△195	△69
株式の発行(ストックオプション)による収入	—	17	47	39
配当金の支払額	△30	△25	△33	△31
その他	△1	△5	0.3	1
財務活動から得た現金及び預金	△600	△142	△305	△222
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	△3	3	△1
現金及び預金同等物の純増加額	△555	931	109	△284
現金及び預金同等物の期首残高	1,381	831	1,762	1,872
現金及び預金同等物の期末残高	831	1,762	1,872	1,587

売上基準の変更により売上債権が増加し未成工事受入金が減少したことによるものです

岩瀬工場の幅広板製造設備等取得が主なものです

長期借入金の返済と自己株式の取得によるものです

損益計算書要旨

(単位：百万円)

	01/3期 連結	02/3期 単独	03/3期 単独	04/3期 連結	(%)	05/3期 連結	(%)
売上高	3,738	4,970	4,146	4,379	100.0	4,501	100.0
売上原価	3,196	4,035	3,248	3,428	78.2	3,888	86.4
販売費及び一般管理費	523	593	554	586	13.4	629	14.0
営業利益	18	341	343	364	8.3	△16	△0.4
営業外損益	205	9	30	△20	△0.3	170	3.8
経常利益	224	351	374	344	7.9	153	3.4
特別損益	△122	△384	△174	—	—	△31	△0.7
税金等調整前 当期純利益	101	△32	199	344	7.9	121	2.7
法人税、住民税 及び事業税	14	36	78	174	4.0	0.03	0.0
法人税等調整額	△126	△83	19	△22	△0.5	52	1.2
当期純利益	213	15	102	192	4.4	69	1.5

今期より売上基準を完成工事基準から出荷基準に変更しました

不動産リート関連等の運用収入が寄与しました

福利厚生施設関連の子会社株式評価損を特別損失として計上しました

04/3期は簡易法(B/Sのみ連結)で、05/3期よりB/S・P/L共、連結決算を実施いたしました。

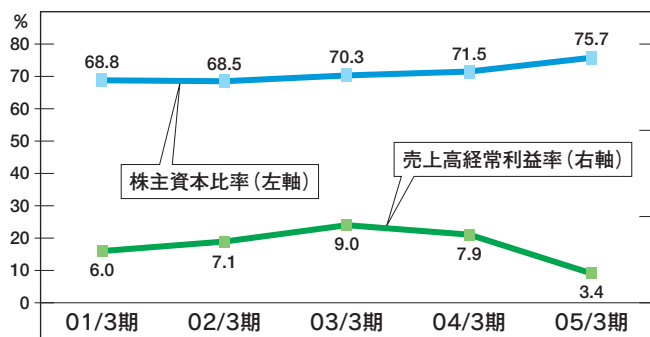
利益処分

(単位：百万円)

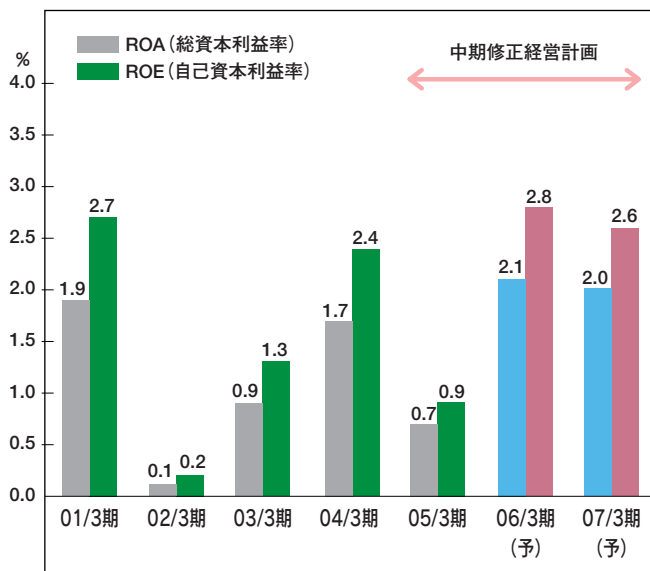
	05/3期
当期純利益	76
前期繰越利益	704
当期末処分利益	780
株主配当金	38
次期繰越利益	741

昨年配当8円に2円プラスした10円の配当とさせていただきます

売上高経常利益率と株主資本比率

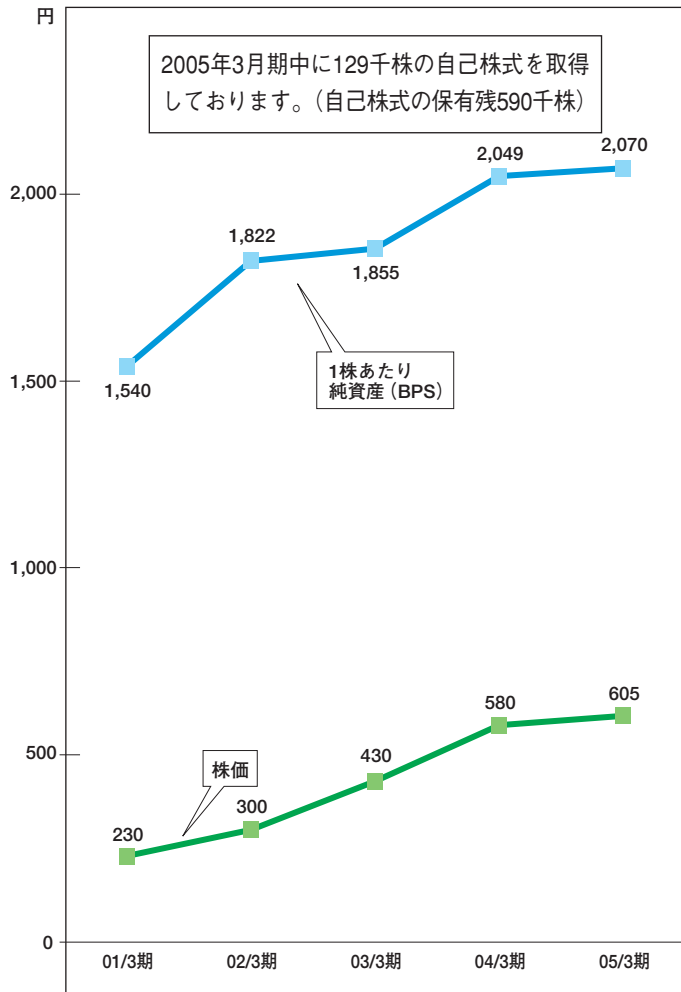


ROA・ROE



株価の推移(終値)

期末株式総数 4,460,200株



ひとこと



取締役会長

村山 好弘

情報の開示

「株式を公開することは会社がOur CompanyからYour Companyになることである」と米国に留学したときに講義で聞いたことを、昔のことではありますが今でもよく憶えています。

このフレーズの意味するところは「会社は株主の皆様に対して正確な情報を伝達する義務がある」ということではないでしょうか。

当社は公開当初からこの方針に従って、正確な会社情報の公開に努めてまいりました。しかし、最近の新聞報道によると、信じられないことですが会社が情報の虚偽の申告をしたり、なかには粉飾決算を行う会社もあるとのことでした。

会社は良い時も悪い時もあります。良い時は良いなりに悪い時は正直にその情報を提供するの、当社の方針であり、変わらず実行してまいりました。残念ながら前期の決算は必ずしも株主の皆様から見れば満足のものではありませんが、今期は業績の回復を期して全社を挙げて努力する覚悟でありますので引き続きご支援の程をお願い申し上げます。



□マンション

Wコンフォート Towers

45階建超高層マンション、付属の駐車場棟と合わせ総数量約45,000㎡、当社パネルの採用が多いダブルチューブ構造マンションです。



□オフィスビル

北関東総合警備保障(株)本社ビル

総タイル貼り外壁として全面採用。
当社初の本格的ロッキング工法（耐震取付工法）を採用しました。



□倉庫

(株)第一倉庫冷蔵岩槻6号棟

大規模冷蔵庫としては比較的少ないオールPC（躯体）工法の床・壁に全面的に採用されました。



□新製品 Jスラブ

Jスラブを施工した高層マンション現場で、床振動特性測定実験を実施するなど、音環境面でも性能データの蓄積に努めています。

スパンクリートの特長

高強度部材で大スパンに適します



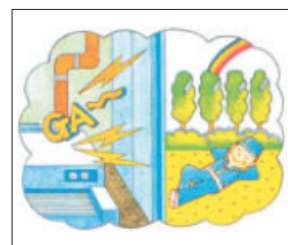
防水性に優れています



防火性に優れています



遮音性に優れています



会社の概要

1. 会社名 株式会社スパンクリートコーポレーション
(英文名) SPANCRETE CORPORATION
2. 設立 1963年(昭和38年)3月23日
3. 資本金 32億9,094万円(2005年5月31日現在)
4. 役員
取締役会長 村山好弘
代表取締役社長 原田 穰
常務取締役(生産管掌) 北村 勲
常務取締役(営業管掌) 齊藤 建次
取締役 大塚 尚
取締役 東村 友次
取締役 内田 憲一
常勤監査役 高木 幹夫
監査役 阿部 裕三
監査役 清水 雄輔
(2005年6月28日現在)
5. 本社 東京都文京区本郷4-9-25
〒113-0033 TEL(03)5689-6311
6. 仙台営業所 宮城県仙台市青葉区一番町2-11-1 MS一番町ハイツ
301 〒980-0811 TEL(022)227-3432
7. 宇都宮工場 栃木県宇都宮市平出工業団地8-5
〒321-0905 TEL(028)661-2211
8. 岩瀬工場 茨城県西茨城郡岩瀬町大字岩瀬2161-1
〒309-1211 TEL(0296)75-5711
9. プレテック(株) 埼玉県大里郡江南町大字樋春字袋田1224
熊谷工場 〒360-0112 TEL(048)536-1511
10. 取引銀行 みずほ銀行(東京支店)
東京三菱銀行(神田支店)
UFJ銀行(本郷支店)
りそな銀行(上野支店)
三菱信託銀行(本店)

主要取引先

- 設計事務所 三菱地所(株)・(株)日本設計・(株)日建設計・(株)日建ハウジングシステム・東電設計(株)・(株)松田平田・(株)梓設計・創元設計(株)・(株)横河建築設計事務所・(株)ジェイアール東日本建築設計事務所・独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構・(株)久米設計・(株)石本建築事務所 他
- 商社 三菱商事(株)・三菱商事建材(株)・三井物産鉄鋼建材(株) 他
- 建設会社 鹿島建設(株)・大成建設(株)・清水建設(株)・(株)竹中工務店・(株)大林組・前田建設工業(株)・戸田建設(株)・西松建設(株)・三井住友建設(株)・鉄建建設(株) 他



宇都宮工場

大株主

- 1 三菱商事(株)
- 2 日本スパンクリート機械(株)
- 3 鈴木金属工業(株)
- 4 村山好弘
- 5 偕成ビルディング(株)

会社の沿革

- 1963年 3月 スパンクリート製造株式会社(旧社名)設立
資本金1,000万円 代表取締役社長 村山好弘就任
- 4月 資本金4,000万円に増資
- 7月 資本金1億円に増資
- 1964年 2月 宇都宮第一工場屋外生産設備完備 試作開始 営業開始
- 7月 資本金2億円に増資
- 1970年 10月 宇都宮第二工場建設完了 生産開始
- 1971年 4月 日本スパンクリート協会を設立 会長に当社代表取締役社長村山好弘就任
- 1975年 10月 空胴プレストレストコンクリートパネル工業協会(穴あきPC板工業協会)設立
会長に当社代表取締役社長 村山好弘就任
- 1976年 5月 JISA6511(空胴プレストレストコンクリートパネル)制定される
- 1979年 12月 資本金2億3,000万円に増資
- 1982年 12月 宇都宮工場 JIS指定工場となる
- 1984年 3月 スパンクリート合成床工法 建設大臣認定を取得
- 7月 宇都宮第三工場生産設備完了 生産開始
- 1988年 11月 資本金2億9,000万円に増資
- 1989年 5月 スパンクリート合成床工法 特許を取得
- 10月 資本金4億2,434万円に増資
- 11月 資本金14億9,759万円に増資
- 11月 岩瀬工場建設完了 生産開始
- 1990年 2月 スパンクリート合成床工法 発明大賞受賞
- 1991年 2月 社名をスパンクリート製造株式会社から株式会社スパンクリートコーポレーションに変更
- 4月 スパンクリート合成床工法 科学技術庁長官賞受賞
- 9月 株式を公開(店頭) 資本金32億3,459万円に増資
- 1992年 4月 当社代表取締役社長 村山好弘 黄綬褒賞受賞(スパンクリート合成床の発明考案など業務精励)
- 5月 株式を1対1.4に分割
- 1993年 5月 岩瀬工場 JIS指定工場となる
- 1996年 7月 本社を文京区本郷4丁目に移転
- 2004年 3月 明星プレテック株式会社(4月プレテック株式会社に社名変更)の株式を100%取得
- 2005年 5月 宇都宮工場・岩瀬工場・設計部 ISO 9001認証取得



岩瀬工場